

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達支援センターたっく（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	令和7年1月23日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	22
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの発達や特性・家族ニーズを理解し、支援計画を作成しています。モニタリングの時期に担当職員と目標や支援方法の見直しや共通認識の時間をとっています。支援プログラムの内容を廊下に掲示し、降園時には様子を保護者に伝えています。	その日の活動については、スモールステップができる内容にしたり、組み合わせを変えたりしながら固定化されない集団・個別活動を行い、職員で共有して取り組んでいます。	保護者に向けて、支援プログラムは廊下に掲示しています。降園時の集まりが悪く、保護者に一斉に伝えきれていない様子が見られます。職員は降園時の話の内容を具体的に伝えられるスキルを身につけ、保護者にも必要性を伝えていきます。
2	こどもの利用日がそれぞれ違い異年齢で過ごすこともあり、縦・横の繋がりを活かし、経験の積み重ねができるグループわけをして取り組んでいます。	こどもに合わせたグループ分けを行い、職員配置も整えています。気付いたことを話題にし、PDCAサイクルを意識して行っています。事業所全体で支援内容やこどもの見立てなど情報を共有、話し合いをし、支援を進めています。	PDCAサイクルの意識はあるものの、計画を立て直す所を繰り返し実践し、職員間で共通認識ができると支援が深まってくると感じます。職員の研修で支援力向上を意識して取り組みます。
3	保護者送迎のため、こども・保護者の体調確認や表情や親子の様子から配慮が必要などの判断が直接できます。また、登園降園時に気軽に話をする時間が設けられるため、関係が作りやすいです。	送迎時以外に面談を行ったり、親子通園日・ファミリーデー・父親参観・お話し会・ペアレントプログラムなど、保護者がこどもの理解に繋がる場を設けたり保護者同士が繋がる機会を増やしました。	こどもの発達や特性について一緒に考えていく場は今後もう取り入れていきたいと思っています。参加しやすい時期や回数、時間などを保護者のニーズを聞きながら進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラムや活動内容のねらいなどを具体的に保護者に伝えきれていないことです。	送迎時間の集まりの徹底ができていないことが考えられます。また親子や家族で参加する活動のプログラムデイリーを1か月前に配布しているため、当日、内容確認をせずに、参加する姿が見られます。	集まりの必要性の周知、スキップ（親子通園）の際にねらいなどを伝える時間を作ったり、配布したプログラムの内容を参加する当日に合わせて目を通してもらう方法を検討していきたいと考えています。
2	家族・兄弟や保護者同士の交流、学ぶ機会が少ないことです。	家族・兄弟対象の活動は、土曜日みの開催であり、仕事や各種用事が入っていて参加が難しいことが考えられます。	多くの保護者の方に交流の場や学びの場が提供できるように、開催日ともう一日振替日を作り取り組んでいます。また、スキップ（親子通園）の日は、通常日課にし保護者同士の情報交換や話ができる時間を設けていきます。
3	地域の人やこどもを招いての交流が持てていないことです。	地域の人との交流が具体的に計画できませんでした。	地域の自治会の方と計画をして、地域の人との交流機会を作れるように進めていきたいと思っています。